NEDO Challenge for BLUE ECONOMY

「NEDO懸賞金活用型プログラム/広範囲な浅海における短時間計測・観測システムの開発」

応募説明会資料

NEDO Challenge for BLUE ECONOMY運営事務局

Agenda

01 背景

02 1次コンペティションの公募概要

03 募集テーマ・部門

04 スケジュール・応募方法等

05 マッチングプログラム

06 お問い合わせ

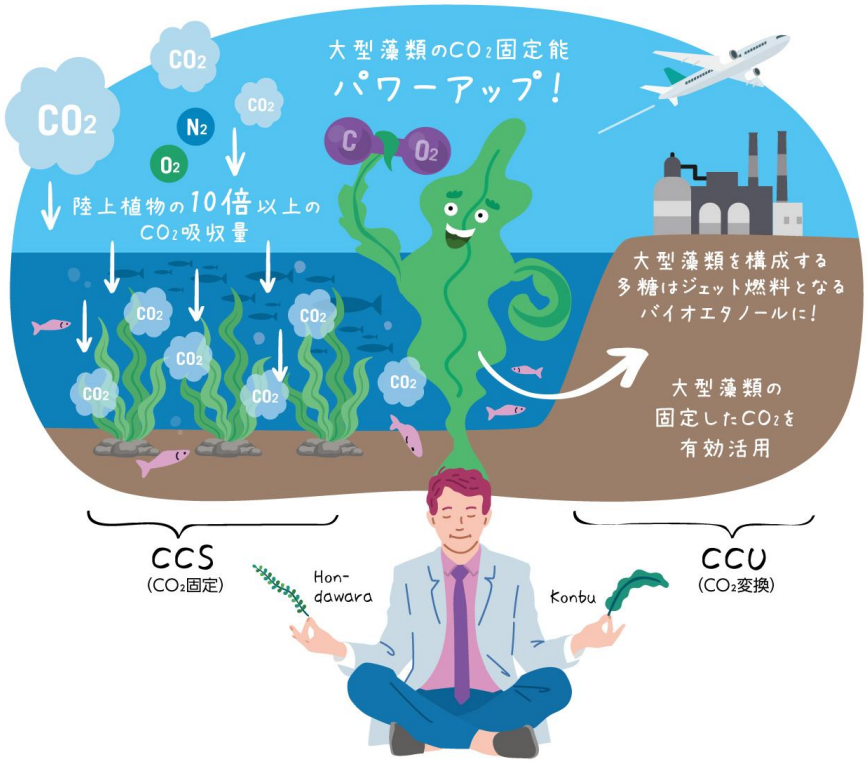
01 背景

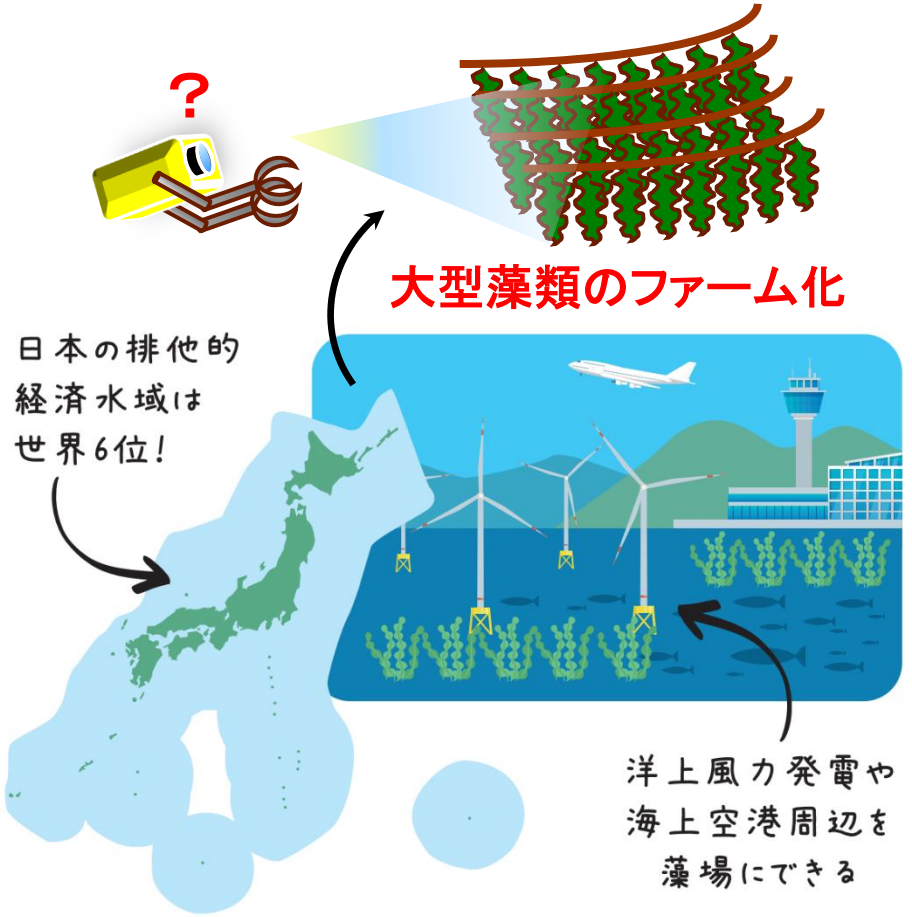
テーマ1　大型藻類の生育状況の把握・計測

NEDO Challenge

ムーンショット事業名
機能改良による高速CO_2固定大型藻類の創出とその利活用技術の開発

● **CO_2の固定からエネルギーの生産まで海洋の褐藻が大活躍**





» 大型藻類の燃料で飛行機が飛ぶ!?

CO2固定能UP　**養殖技術の確立**　**酵母の開発**　**ﾊﾞｲｵｴﾀﾉﾙ→SAF**

海水中の計測・観測・通信の難しさ

NEDO Challenge

- **海水中における計測・観測・通信は特有の難しさがあり、各課題を解決するソリューションの提案を期待します。**

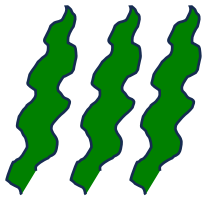
計測・観測方法

	既存の方法	メリット	限界・課題
空中	衛星	広範囲の把握に長けている	深さ方向が分かりずらい 画像取得に天候・頻度等の制約
海中	光学カメラ	形状・色等を判別しやすい	光の減衰による視認距離の短さ 濁りに弱い
	音響SONAR	濁りに強い	多重反射による精度の低下

通信方法

既存の方法	メリット	限界・課題
電波	（地上では、高速・高ビットレート）	減衰大・短距離
音波	長距離通信が可能	低速・低ビットレート （大容量データの通信に課題）
光	高速・高ビットレート （大容量化ポテンシャル）	短距離・指向性が強い 濁りに弱い

表：NEDO調べ・まとめによる



←測定対象物の不確実性

国内外の海洋を取り巻く状況調査

第4期海洋基本計画の重点政策である、持続可能な海洋の構築と防衛・安全保障を軸とし、調査トピックを分類したうえ で国内外での海洋を取り巻く状況を整理。

海底資源　洋上風力発電設備　DOC　ブルーカーボン　軍需

経済性の高いもの　日本特有のもの

日本でやるべきこと

懸賞金事業で実施すべきテーマの抽出

テーマ	重要性（社会的意義）	経済性（市場規模・ニーズ）	懸賞金事業で実施する意義
ブルーカーボン	カーボンニュートラルは世界共通課題であり重要性は高い	現時点の市場は小さいが将来的な市場拡大を見込める	日本は藻場が多く、計測技術も確立されていない
船底の付着生物	環境保全（IMO 対策）・燃費改善のため、付着生物の点検・除去は重要である	燃費改善によるコスト削減効果が大きく、需要も拡大している	バイオフィルム段階で観測・除去可能か

NEDO懸賞金事業　海洋を取り巻く状況調査結果　PwC（2025/8/26）より作成

テーマ2 船底付着生物の把握

NEDO Challenge

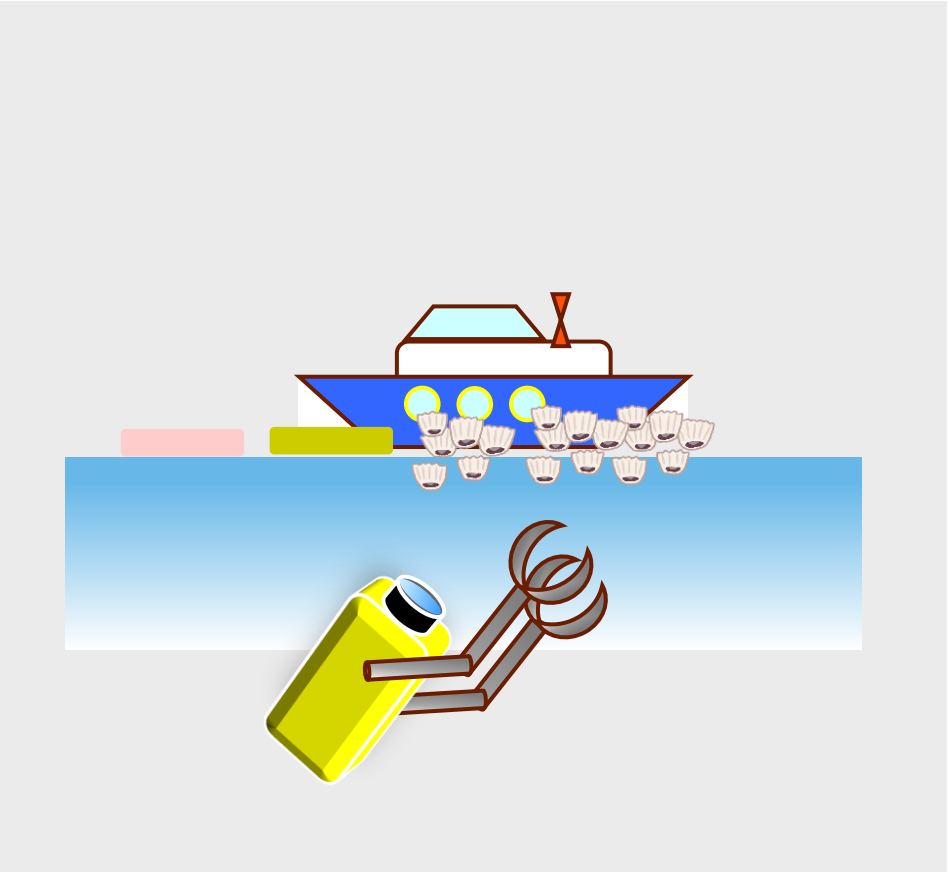
- 船体付着生物は船舶の燃費悪化やGHG出増加、外来種拡散リスクなど多面的な問題をもたらし、国際的な規制強化や技術革新が期待されます。
- 船底点検・清掃ロボット市場はCAGR約40%に及ぶと見込まれており、今後市場が伸びると予測されます。

問題の概要

船体に海洋生物が付着すると**推進抵抗が増加**し、燃費が最大40%悪化[1]、温室効果ガス排出量も増加する。また、船体付着生物による外来種の拡散が生物多様性や経済に深刻な影響を及ぼすリスクもあり、調査では外来種侵入要因の69%[2]が船体付着によるものとされている。

国際的な動向

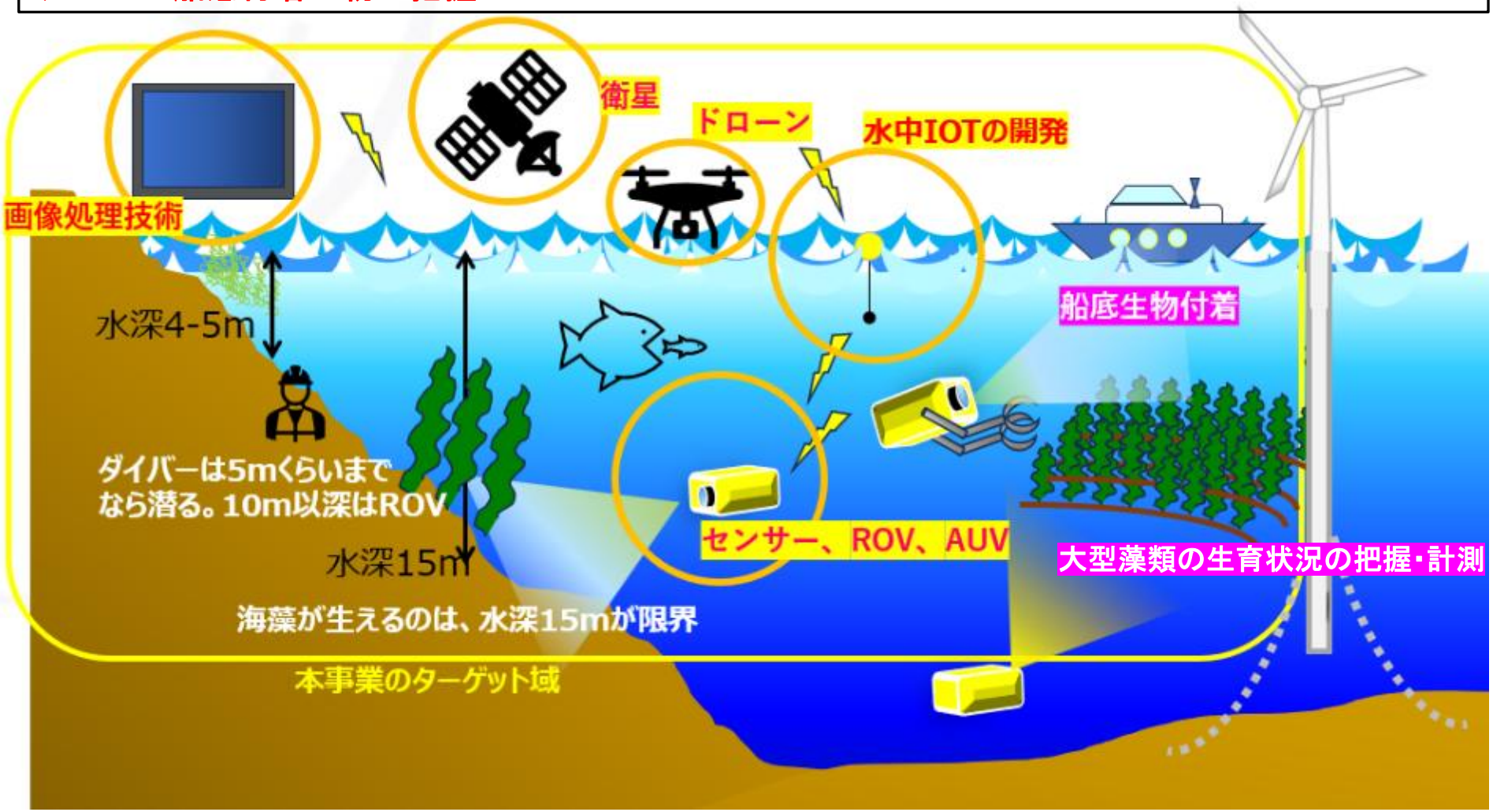
国際海事機関（IMO）は**2023年に船体付着生物管理ガイドラインを改訂し**、管理計画書、記録簿、防汚システム導入、定期的な水中検査・洗浄などを積極的に推奨。オーストラリア、ニュージーランド、米国カリフォルニア州などでも独自の厳格な規制が導入され、国際的な規制強化が加速。



バイオフィルムの状態で観察・清掃できないの？

広範囲な浅海における短時間計測・観測システムの開発のテーマまとめ

テーマ1　大型藻類の生育状況の把握・計測
テーマ2　船底付着生物の把握

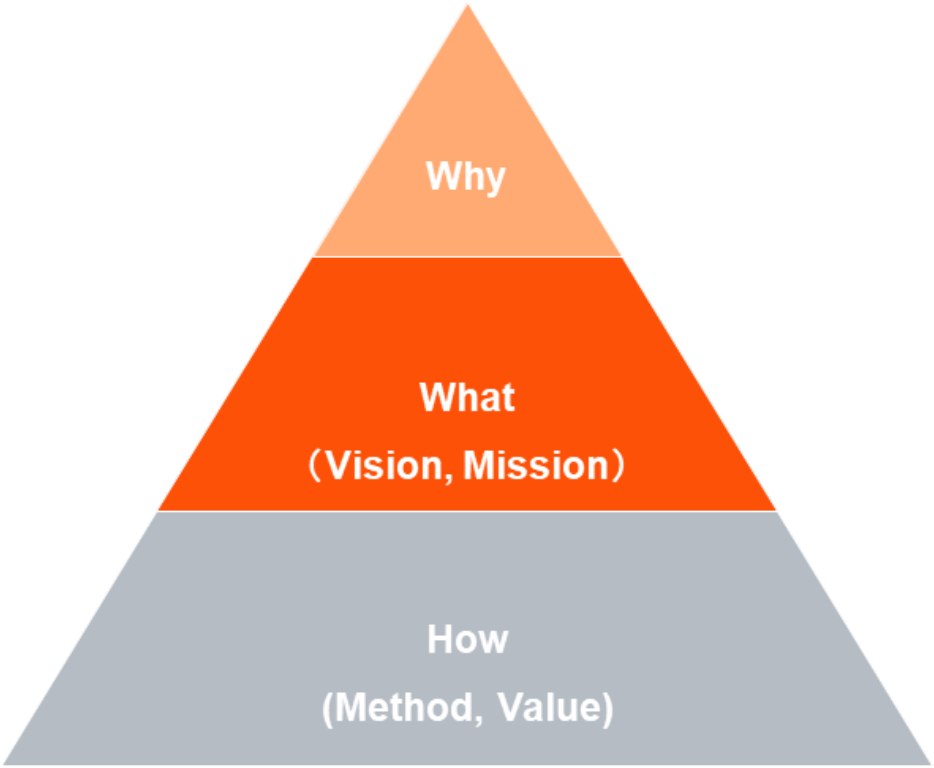


懸賞金活用型プログラムのゴールとその先へ

NEDO Challenge

- 本懸賞金活用型プログラムのゴールは「大型藻類の生育状況の把握・計測」と「船底付着生物の把握」を可能にする技術開発ですが、皆様が思い描くゴールと本事業のゴールは必ずしも一致している必要ありません。
- 本事業を通じて、皆さまがそれぞれ思い描くブルーエコノミーの将来像を実現する一助としてご活用頂きたく存じます。

一緒に地球温暖化対策に貢献しうる技術の開発を目指しましょう！



なぜ地球の温暖化は起きているのか？
- なぜ暑い日が続くのか？
- 海は温暖化の影響を受けているのか？
- 海を使って何か貢献できないのか？

私たちは何をすべきか？
- ブルーカーボンによる地球温暖化対策への貢献
- ブルーカーボンを起点としたエネルギー原料・プラスチック材料の創出
- 海洋環境・海洋生物多様性性の保存、外来生物の拡散防止
- 海洋産業の活性化

どのような方法で？
- 水中ドローンを使った天然/人工藻場の生育状況のモニタリング
- 固定式IoTセンサを使った天然/人工藻場の生育状況のモニタリング
- 環境DNAを使った生物多様性評価
- 藻場のCO_2吸収量の算定
- AIを使った画像認識・解析技術

背景：事業概要　みなさんへの期待

NEDO Challenge

我々NEDOムーンショット事業では、大気中の比較的薄いCO_2を吸収固定・利活用する技術開発を行うことで、クリーンなエネルギー開発と環境問題の解決の両立を目指しています。
この懸賞金プロジェクトは、その研究過程で生じた**浅海の計測・観測のニーズ**に始まります。

海中はあらゆる物理現象の減衰が激しく、既存の単一技術はもとより複数の既存技術を組み合わせても困難であること。さらに、海洋付着生物という個体有機物を非破壊で計測する必要があることも難易度を高めており、**技術課題等の解決に資する多様なシーズ・解決策をコンペティション形式による懸賞金型の研究開発方式を通じて募り**、将来の社会課題解決や新産業創出につながるシーズをいち早く発掘することで、**共同研究等の機会創出、シーズの実用化等の促進を目指して実施**するものです。

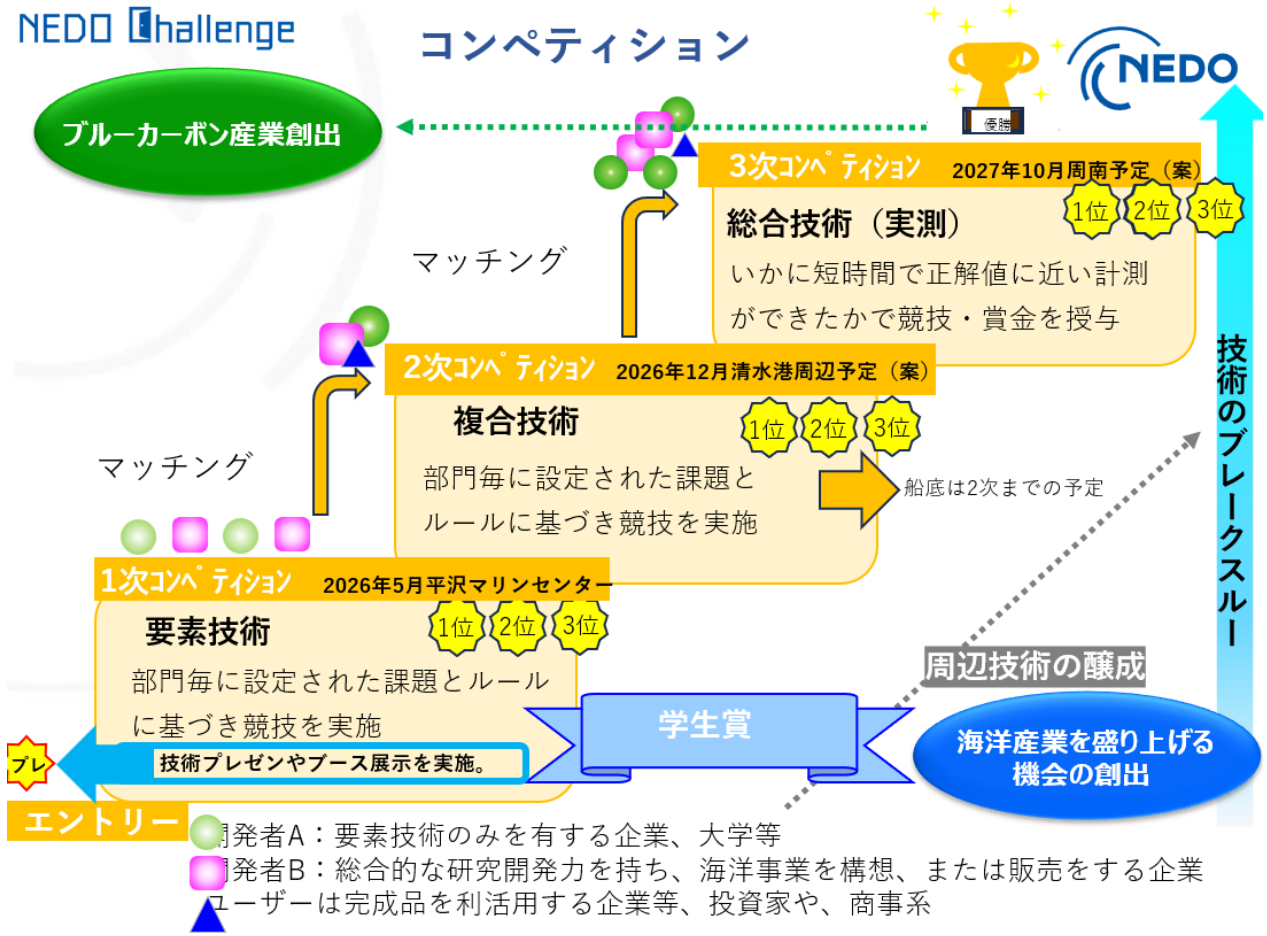
海洋環境および生物多様性の保全についても我が国が喫緊に取り組まなければならない課題の1つであり、**国際海事機関（IMO）において、船体に付着した 生物**の越境移動による生態系破壊の防止について議論されており、船体付着生物の管理に 関するガイドラインが策定されています。

持続可能な海洋の観点から今後のブルーカーボン産業や海洋産業の活性化への期待が大きい日本においてこれらは、NEDOが取り組むべき技術開発プログラムと考えています。

02

1次コンペティションの公募概要

全体スケジュール



本日プレイベント

2025年	2026年	2027年

2025年 10月29日～12月18日	2025年12月下旬～2026年1月上旬	2026年 1月中旬	2026年 2月～4月	2026年 5月中旬	2026年 6月～11月	2026年 12月頃	2027年 1月～8月	2027年 9月頃～12月頃
応募期間	書類審査	結果発表	開発	1次コンペ	開発	2次コンペ	開発	3次コンペ

１次コンペティションの応募概要

応募期間	応募開始日：2025年10月29日 締め切り日：2025年12月18日 正午
受付方法	本応募は、受付フォームのみで受付けます。
提出先	以下公式サイト上の受付フォームから提出ください。 https://blue-economy-challenge.nedo.go.jp/
問い合わせ先	NEDO Challenge for BLUE ECONOMY 運営事務局 メール：info@blue-economy-challenge.jp （本事業全般に関するお問い合わせ）

03 募集テーマ・部門

1次コンペティションの募集テーマ

テーマ1「大型藻類の生育状況の把握・計測」

ムーンショット型研究開発事業「機能改良による高速CO2固定大型藻類の創出とその利活用技術の開発」の研究成果をもとに、将来的に数ha規模の養殖場の導入を想定しています。養殖にあたっては大型藻類の生育状況を把握する必要がありますが、大型藻類の3次元の形状を把握し広範囲の養殖場をモニタリングするための技術は確立していません。
大型藻類の生育状況を水中ドローン等のロボットでモニタリングする際に、次の3つの要素技術の開発・高度化が必要であると考えます。

1つ目は、海中では潮流や乱流などの外乱が発生しますが、そのような状況下において、高度にロボットの姿勢を制御する技術が必要となります。
2つ目は、水中において様々な活動を行う際に、自分自身の位置を把握することが必要です。
3つ目は、対象とする大型藻類の生育状況を把握するため、大型藻類の3次元の形状把握・湿重量の推定が必要となります。
これら3つの要素技術を部門ごとに分けて1次コンペティションを実施します。
また、ロボット等によるモニタリングに囚われない、自由な発想による計測技術も部門として設計し、技術提案を募ります。

テーマ2「船底付着生物の把握」

IMOにおいて船体付着生物管理に係る法的枠組みの検討が今後の課題となっています。また、日本においては船底の点検作業を潜水士が行っていますが、潜水士の高齢化等による人手不足の問題や、危険を伴う作業の事故リスクがあることからも、点検・清掃作業の無人化・自動化のニーズが年々高まっています。

このような背景を受け、今後重要度が増していくと思われる、船体付着生物の把握を対象として、その中でもニーズの高い船底状態のマッピング・把握を課題として設定し、1次コンペティションを実施します。なお、船底付着生物の把握においても、水中ロボットの外乱制御、水中における自己位置把握は重要な要素技術であるため、テーマ1と共通部門として、1次コンペティションを実施します。

募集テーマと部門

2つのテーマ、5つの部門の課題を募集いたします。

	テーマ1 大型藻類の生育状況の把握・計測 CO_2固定能力の高い大型藻類の養殖や利活用に向け、広範囲かつ高精度で生育状況をモニタリングする技術を募集します。	テーマ2 船底付着生物の把握 船舶を介した生物の越境移動防止や、船底点検・清掃の自動化に向け、船底状態のマッピング・付着生物の把握技術を募集します。
部門1	**水中ロボットの外乱制御（共通）** 潮流や乱流などの外乱下で、AUV・ROV等の水中ロボットが安定航行し、広範囲を迅速に計測できる制御技術を競います。	
部門2	**水中における自己位置把握（共通）** GPSが使えない水中で、ロボットが正確に自己位置を推定する技術を競います。	
部門3	**藻類の計測・解析技術** 大型藻類の体積・湿重量を推定するための3次元計測・解析技術を競います。	-
部門4	**自由技術部門** 既存技術にとらわれない、大型藻類モニタリングの革新的ソリューションを募集します。	-
部門5	-	**船底マッピング・船底状態の把握** 船底の形状をマッピングし、バイオフィルムや付着生物の状態を迅速・正確に判定する技術を競います。

部門説明　部門１：水中ロボットの外乱制御

項目	内容
課題説明	水中の点検作業においては、潮流などの外乱の影響を受けずに、広範囲を安定的に航行できることが重要です。 本部門においては、AUV、ROV等の水中ロボットを対象に大型藻類の養殖場を広範囲に計測可能な制御・ナビゲーション技術を募集します。実際の計測作業を想定し実海域において、養殖用のロープ等のターゲットを外乱環境下においても計測できるかを競うことを予定しています。 船底点検でも必要な共通要素技術ですが、競技はテーマ1に即して実施します。
応募例	• ROV、AUV等のロボットを用いた自動制御技術 • 新たな推進方式・形状のロボットによる制御技術
応募者への期待	ソフトウェア・ハードウェアの両面から工夫を凝らした技術提案を期待します。 将来的な点検作業の自動化を見据え、自律航行にチャレンジする提案を歓迎します。 既存のROV、AUVの形状・形式にこだわらず、新たな推進方式や形状の水中ロボットの提案も歓迎します。

部門説明　部門2：水中における自己位置把握

項目	内容
課題説明	水中での点検作業における課題として、作業するロボットの自己位置把握が難しく、どの場所を点検しているかが正確に把握しきれないことが挙げられます。本部門においては、目標地点まで自己位置把握技術を用いて水中でロボットを移動させ、目標地点と機体位置との誤差の小ささを競うことを予定しています。競技はGPSを受信できない水中での自己位置把握を対象とします。
応募例	• 音響測位を用いた自己位置の把握技術 • DVL（ドップラー速度計）やIMU（慣性計測ユニット）などの慣性センサを用いた自己位置の把握技術 • 上記の計測技術を組み合わせたセンサフュージョン技術 • その他、自己位置推定技術
応募者への期待	自己位置把握技術は、精度を向上させるために高価なセンサを用いる技術も存在しますが、大型藻類や船舶の点検作業などへの将来の社会実装を見据え、安価かつ効果的な手法の提案を期待します。

部門説明　部門3：藻類の計測・解析技術

項目	内容
課題説明	大型藻類の養殖において、生育状況の把握や大型藻類の収量およびCO2の固定量を把握することが重要です。本部門では、養殖用のロープに養殖された大型藻類（ホンダワラ類またはコンブ類）をASV、AUV、ROV等の水中・水上ロボットに搭載した光学カメラやソナー等のセンサや、固定式のセンサ等で計測し、さらにその計測結果を解析することで、大型藻類の体積・湿重量を推定し、その正確性を競うことを予定しています。
応募例	• 光学カメラによる3次元計測 • ソナーを用いた形状の計測 • レーザーを活用した点群データ取得 • フォトグラメトリ等による3次元解析技術 • 複数台・複数種のロボット（ASV、ROV、AUV等）や様々なセンサを組み合わせた計測固定式IoTセンサによる大型藻類の重量の予測技術 • その他、手段を問わない3次元計測・解析技術
応募者への期待	動体である大型藻類の形状や体積を正確に把握することは技術的な難易度が高いですが、様々な計測・解析技術を複数組み合わせることで、新たな計測技術の確立に向けたチャレンジングな提案を期待します。 また、大規模な養殖場の点検を見据え、より短時間で計測・解析が行える技術を期待します。

部門説明　部門4：自由技術部門

項目	内容
課題説明	水中ドローン等のモビリティにこだわらない自由な発想で、大型藻類の生育状況をモニタリングできる手法を募集します。大型藻類の生育状況を把握できる技術であればどのようなものでも構いません。どういう課題に対して、どのような技術で、その課題を解決するのか提案書に記載してください。 ※自由技術部門については、書類選考の結果、有望な技術の提案が少なかった場合は競技を実施しないことがありますので、あらかじめご了承ください。
応募例	• 海洋DNAによる藻場の種類と生育状況の把握システム • 無給電ワイヤレス型の固定カメラによる定点観測技術 • 空から大型藻類の生育状況をモニタリングできるシステム
応募者への期待	既存の技術や、従来のやり方にとらわれない自由な発想で、革新的なソリューションを創出いただくことを期待します。使用する技術に一切の制約はありませんので、ユニークなアイデアとそれを実現する構想をお持ちの方の応募を期待します。

部門説明　部門5：船底マッピング・船底状態の把握

項目	内容
課題説明	船底の点検・清掃作業においては、付着生物が定着する前のバイオフィルムの状態でメンテナンスすることが重要です。船底の清掃が必要な箇所を判断したり、清掃後の効果を判定したりするためには、船底をマッピングしたうえでカメラ等によりどこにバイオフィルムが存在するかを確認する必要があります。 本部門においては、船底、または、船底に見立てた鉄板等を対象に、AUVやROV等の水中ロボットを用いて船底の形状等をマッピングしつつ、バイオフィルムの状態の有無を判定できた面積とその精度を競うことを予定しています。
応募例	• カメラ画像からのフォトグラメトリによる船底形状のマッピング • 音響計測、レーザースキャンによる船底形状のマッピング • 画像鮮明化技術による船底状態の把握 • データ解析による付着生物の被覆率の算出 • その他、船底形状マッピング・船底状態把握技術
応募者への期待	船底のマッピングについては、「移動・位置決め」、「計測」、「解析」の3つの技術要素を組み合わせ、正確な情報を迅速に把握する技術の提案を期待します。 事業化を見据え、実際の船舶のオペレーションを想定した状況下（荷物の積み下ろし中、航行中など）においても、船底形状のマッピングが実施可能な技術を期待します。

04 スケジュール・応募方法等

1次コンペディションのスケジュール

項目	スケジュール
公募期間	2025年10月29日（水）～12月18日（木） 正午
プレイベント	2025年11月11日（火）
マッチング	2025年10月29日（水）～11月21日（金）
書類審査	2025年12月下旬～2026年1月上旬（予定）
審査結果	2026年1月中旬（予定）
開発、メンタリング期間	2026年2月～2026年4月
一次コンペティション	2026年5月中旬（予定）
マッチング	2025年10月29日（水）～11月21日（金）
受賞者決定、表彰式	2026年5月下旬（予定）
懸賞金交付	2026年7月末（予定）

1次書類審査の審査項目・内容

5つの審査項目に基づき、有識者による書類審査を行います。書類審査を通過した方は1次コンペティションに参加いただきます。

審査項目	内容
目的・ゴールへの貢献度	• 開発予定の要素技術がコンペティションの各テーマの目的・ゴールに合致しているか
開発する技術の有効性	• 開発しようとする技術の性能・精度は既存技術を超え十分に高いレベルにあるか。 • 開発期間中に技術開発を進めるだけの技術力を保有しているか。
開発する技術の実現性	• 1次コンペティションまでに、要素技術が競技に参加できるレベルに達することが期待されるか（1次コンペティションまでに試作機を完成できる見込みがあるか） • 実海域でのオペレーションが可能であるか
開発する技術の独創性	• これまでにない新しい技術であるか • 既存の技術と比べ優位であるか • 海中計測に用いられてこなかった技術であるか
開発する技術の発展性	• 技術の改良を進めることで技術の発展、性能向上が見込まれる技術であるか。 • 当該技術が海洋産業の発展に貢献するか

1次書類審査の応募申請書

応募申請書（様式4）は、前項の審査内容を意識してご記入ください。

提案書の記載項目	内容	評価項目との対応
１．提案の概要	全体概要が簡潔に示されている 提案内容がコンペティションの目的・ゴールに合致しているか 解決すべき課題と解決策が示されている（特に自由技術部門へ応募される方は課題と解決策をセットで記載ください）	**目的・ゴールへの貢献度**
２．開発する技術の有効性	選択したテーマ（大型藻類計測、船底計測）及び要素技術部門における課題を整理したうえで、提案する技術がどのように課題解決に貢献するかを５００字程度で記載して下さい。文章を補足する図表は2点までとします。	**開発する技術の有効性**
３．開発する技術の実現性	1次コンペティションの競技日（2025年5月予定）までに、提案する技術・システムが競技実施可能なレベルまで開発可能であることについて５００字程度で記載してください。文章を補足する図表は2点までとします。	**開発する技術の発実現性**
４．開発する技術の独創性	提案する技術の独創性（既存技術より改良されたものである、新規技術である、または、今まで海洋分野で活用されておらず新たな用途を開拓する技術である等）や、他の既存技術と比べ優位であることについて５００字程度で記載してください。文章を補足する図表は2点までとします。	**開発する技術の独創性**
５．開発する技術の発展性	開発された技術は発展する見込みがあるか、またブルーカーボン産業の発展に寄与する技術であるかについて、５００字程度で記載してください。本コンペティションのテーマを越えた展開が期待される場合は、その点も含めてまとめてください。 文章を補足する図表は2点までとします	**開発する技術の発展性**
６．実施スケジュール	1次書類審査通過後から1次コンペティションまで(2026年2月～2026年4月)、プロトタイプ（試作機）を開発するためのスケジュールを必ず記載してください。線表を用いてマイルストーンが分かるように示してください。 当該期間にどのような取り組みを行う予定であるか、ご自身の提案の中で補強すべき事項があれば、どのような活動を行い補強するかについても記載してください。	**開発する技術の実現性**

応募時の注意事項

応募の際は以下の注意事項を確認のうえ、提出をお願いします。

注意事項
• 新規開発だけでなく、既存システムの機能性向上等を目指すもの、あるいは、既存システムを組み合わせ新たな付加価値を創出しうるものも対象とします。
• スタートアップ等については、機関投資家等から資金調達を行っている場合であっても応募が可能です。
• 事業管理上、NEDOの必要とする措置を適切に遂行できる必要があります。
• 当事務局が不適切と認めた場合や本事業に関する要件等に違反または不正があった場合には、事務局の判断により応募資格取り消しまたは審査結果の全部または一部について取り消しを行うことがあります。
• 1応募者による各部門への応募数は2つまでとします。提案いただくソリューションの技術開発に必要な開発環境（海洋実環境）については、事務局より無償で提供します。1次書類通過者に対して詳細は別途案内します。

1次書類審査通過者へ向けた支援

本プログラムにおいて、通過者に対して、研究開発促進に向けた以下の支援策を1次書類審査終了後から1次コンペティションまでの期間（2026年2月～2026年4月（予定））で実施します。

支援策	コンテンツ
試験環境の提供	• 開発期間中に日にちを指定した上で、無償で海洋実環境を提供する。
広報機会の提供	• 書類審査通過者の専用サイトにおける公表等により、信用・信頼度、技術力、ブランド価値の向上につなげる。
メンタリングの提供	• 1次書類審査通過者に対して、各応募者の課題・状況に応じた伴走支援を月1回程度（希望制）行う。
ネットワーキング機会の提供	• 1次書類審査通過者に対して、専門分野の有識者や他の周辺分野技術者、他の参加者等とのネットワーキングの機会を提供することで、研究開発アイデアの創出および継続的な共同研究促進を図る
ワークショップ	• 研究開発期間中に今後事業化を踏まえた、有識者からの知見提供、アドバイス、フィードバックと参加者同士の議論の場を提供することで研究開発を加速させ、課題解決の可能性が高まる。

1次コンペティション会場（平沢マリンセンター）

平沢マリンセンターを会場として1次コンペティションを行います。
開発期間中に試験環境の提供も検討しています。

日　時：　2026年5月中旬予定
場　所：　平沢マリンセンター　（静岡県沼津市西浦平沢）

出所：平沢マリンセンターWebサイト

平沢マリンセンターと平沢ダイビングエリアを上空から

出所：国土地理院Webサイト（https://maps.gsi.go.jp/）

【お車の方】
●東名沼津ICもしくは新東名長泉沼津ICより約22km。約45分。
●東名愛鷹SIC約24km。約50分。
●東名沼津ICもしくは新東名長泉沼津ICより、伊豆縦貫道、伊豆中央道を経由、約31km。約40分。

【電車・バスをご利用の方】
JR沼津駅南口から東海バスオレンジシャトル、8番線大瀬行き「ららサンビーチ」下車。

1次コンペティションの懸賞金額

部門	懸賞金額
部門1：水中ロボットの外乱制御	1位：200万円 2位：150万円 3位：100万円 学生賞：100万円
部門2：水中における自己位置把握	1位：200万円 2位：150万円 3位：100万円 学生賞：100万円
部門3：藻類の計測・解析技術	1位：350万円 2位：250万円 3位：100万円 学生賞：100万円
部門4：自由技術部門	1位：200万円 2位：150万円 3位：100万円 学生賞：100万円
部門5：船底マッピング・船底状態の把握	1位：200万円 2位：150万円 3位：100万円 学生賞：100万円

05 マッチング プログラム

マッチングプログラムとは

浅海における大型藻類の生育状況の把握や、船底付着生物の把握に資する、シーズ技術を有する事業者同士の連携・マッチングを通して、コンペティションへの参加を促すプログラムです。

マッチングの例

技術シーズ保有者（水中ロボット等）

- 水中ロボットの制御技術
- 高度な自己位置計測技術
- 水中ロボットの販売代理店
- ROV（遠隔操作型無人潜水機）
- AUV（自律型無人潜水機）
- ASV（自律航行型無人船）

マッチングプログラム

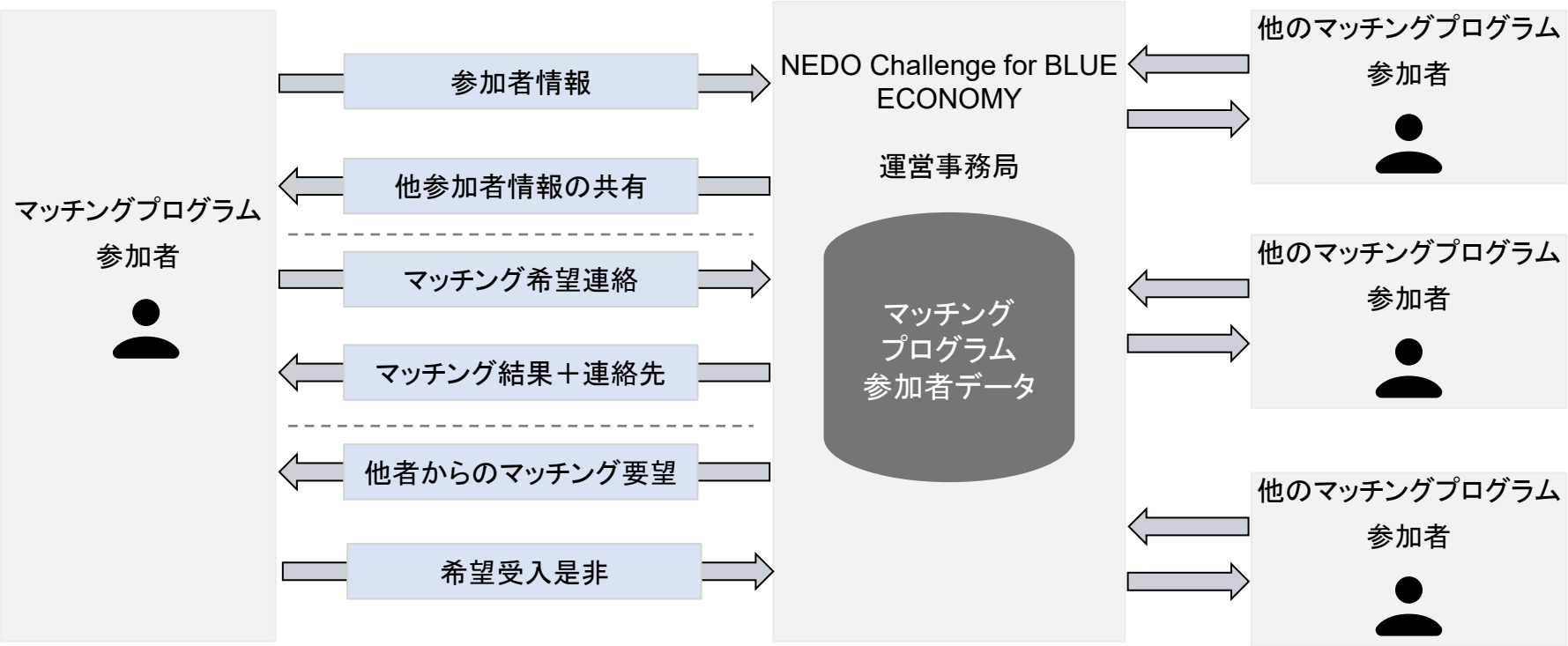
技術シーズ保有者（センシング・解析）

- 高解像度の光学センサー
- 固定式IoTセンサー
- AIを用いた画像解析技術
- 画像鮮明化技術
- 対象物3次元計測
- 画期的な計測システム

コンペティションに向けたチーム組成・共同研究開発

マッチングプログラムのプロセス

マッチングプログラム参加者から収集した情報（参加者の知見や関心領域、希望のマッチング先等）を参加者間で共有します。マッチング希望があった場合は事務局を通じてマッチング先とお繋ぎします。



参加対象者	NEDO Challenge for BLUE ECONOMY への応募を検討されている方であれば、どなたでも参加いただくことが可能です。

マッチングプログラムのスケジュール

公募締切4週間前の2025年11月21日まで申し込みを受け付けます。お申し込みいただいた方には順次、他のマッチングプログラム参加者情報を共有し、マッチングに向けての機会を提供します。

実施概要	日程（予定）	内容
マッチングプログラム応募	10/29~ 11/21	自身の情報（知見や関心領域）、希望のマッチング先などの情報をマッチングプログラム専用の応募フォームへ記入し、提出する。
マッチング希望検討	マッチング応募時 ~ 11/26	他のマッチングプログラム参加者情報を確認し、マッチングしたい相手を選び、マッチング希望およびマッチング希望先へのメッセージを事務局へ提出する。
希望受入是非の検討	マッチング応募時 ~ 11/26	他のマッチングプログラム参加者からのマッチング希望に対する受入是非を検討の上で、事務局へ提出する。
直接交渉	マッチング応募時 ~ 12/5	マッチングした先の連絡先を事務局から受け取り、マッチング先とコンペティション応募に向けて直接交渉し、連携方針を検討する。
コンペティションに向けたチーム組成	応募時 ~ 12/18	チーム組成後、本コンペティションへの応募、その先の共同研究へ繋げる。

※マッチング機会の提供は11/21の締切を待たずに随時実施いたします。コンペティションへの提案に向け、NDA等の締結の手続きが必要な場合もあるため、締切日を待たずに調整いただくことを推奨いたします。

マッチングプログラム 申し込み方法

マッチングプログラム専用の応募フォームにアクセスいただき、必要事項を記入・送信いただくことで応募いただくことが可能です。

応募受付期間：2025年10月29日～11月21日（月）正午

応募方法：
下記公式サイト上のマッチングプログラムの応募フォームにアクセスいただき、必要事項の記入・提出をいただくことで応募が可能です。

公式サイト：https://blue-economy-challenge.nedo.go.jp/index.html

記入事項	
参加者 基本情報	参加者への各種連絡のため、事務局にて管理する情報を記入いただく事項です。他のマッチングプログラム参加者には公表されない情報です。
参加者情報	参加者自身の持つ知見、経験、取り組みたい研究内容の他、希望するマッチング先の情報を記入いただく事項です。**他のマッチングプログラム参加者に公表される情報となりますので、記載内容にご注意ください。**
宣誓事項等	ご提出いただく参加者基本情報、参加者情報および事務局から共有予定の他のマッチングプログラム参加者情報の取り扱い等に関する同意を宣誓いただく事項です。公表されない情報です。

06

お問い合わせ

お問い合わせ

質問事項がある場合は、公式Webサイトの「よくあるお問い合わせ」をご参照ください。
その他のお問い合わせは事務局までメールにてお問い合わせください。

問合せ先：NEDO Challenge for BLUE ECONOMY運営事務
info@blue-economy-challenge.jp

受付期限：2025年12月12日（金） 正午迄
※連絡の際は、メールの件名に必ず「問い合わせ（NEDO Challenge）」と記載し、本文に「所属団体名」、「担当者名」、「メールアドレス」を明記ください。

よくあるお問い合わせ（例）

海外の機関も応募可能か。	海外の機関の応募は不可となります。応募対象は日本国内のグループ・法人です。個人で応募する場合は日本国籍を有していることを応募の要件とします。
他のNEDO案件と並行して応募可能か。	全く同一の内容でなければ、応募可能です。
提案書には、文字以外にも図などを入れてもよいか。	文章を補足するための簡単な図または表を各項目最大2点追加することが可能です。
受賞できなかった場合は、一切金銭的な補助はないのか。	金銭的な補助はございません。
開発期間中に事業化/利益化してもよいか。	開発期間中に事業化/利益化しても構いません。